

佐野日本大学短期大学シラバス				2018
科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
哲学 Philosophy		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
廣澤 圭則		講義棟 1F 講師室	授業の開始前及び終了後	授業中に指示します
授業の概要				
哲学入門である。哲学の歴史的な流れを背景に先人たちの思想を学ぶ。どのような時代にどのような思想が生まれたのか、時代背景をイメージしながら哲学者の思想について解説をおこなう。				
講義全体の総括として、学生によるグループディスカッションを設ける予定である。				
授業の目標				
哲学についての基礎を学ぶとともに、受講者が哲学的な思考を養えるようにする。 また、講義を通して自身の指針となる思想を見つけられるようにする。				
授業の方法				
講義方法については前半を板書、パワーポイント等を用いた講義、後半をディスカッションとする。 特にディスカッションにおいては、受講者各位に自由闊達な意見を述べてほしい。				
学習の成果（学習成果）				
哲学的に物事を考えることができ、先人たちの哲学的思想を自身の人生の糧とすることができる。 社会的な課題に取組み解決する方法を考える、思いやり、社会への責任感を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス（学習の方法、シラバスの説明、成績評価の説明）、哲学史上の人物たち			
第2回目	古代の哲学① ソクラテス以前の哲学、自然学と哲学、実践的な思考			
第3回目	古代の哲学② ソクラテスとプラトン、プラトンのイデア論、プラトンにおける肉体と魂			
第4回目	古代の哲学③ アリストテレス、アリストテレスとプラトン、アリストテレスの著作			
第5回目	古代の哲学④ ヘレニズム哲学、エピクロス学派とストア学派前期			
第6回目	古代の哲学⑤ ヘレニズム哲学、ストア学派後期、セネカとマルクス・アウレリウス			

第7回目	中世とルネサンスの哲学① 中世の哲学、教父神学
第8回目	中世とルネサンスの哲学② アラビアの哲学、スコラ神学
第9回目	中世とルネサンスの哲学③ ルネサンスの哲学、哲学と錬金術 レポート②次回提出・発表
第10回目	近代哲学 ルネ・デカルト、合理論、経験論、啓蒙主義、イマヌエル・カント、カントの著作、哲学と超心理学
第11回目	19世紀の哲学 ドイツ観念論、実証主義、解釈学、プラグマティズム、マルクス、フォイエルバッハ、シュティルナーショーペンハウアー、ニーチェ、キェルケゴール、哲学と精神分析
第12回目	20世紀の哲学 実存哲学、現象学、分析哲学、構造主義とポストモダン
第13回目	受講者によるグループディスカッション① 題材の策定
第14回目	受講者によるグループディスカッション② 題材についてのディスカッション。発表のため準備。
第15回目	受講者によるグループディスカッション③ 題材について発表。
事前・事後学習	I Tや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	30% 授業に集中している。分からないことは主体的に質問するなど自身で解決している。ディスカッションへの積極的な参加などを加点の対象とする。
レポート	30% 出席の確認、授業の理解度を確認するために毎時間レポートを課す。
調査報告書	
小テスト	
試験	
発表内容（態度含む）	40% 発表に備えて十分に準備している。自ら意欲的に発表に臨んでいる。話す言葉づかいが適切である。話す速度が適切である。声の大きさが適切である。言葉が明瞭でわかりやすい。話が論理的に展開されている。
その他	
教科書と参考図書	
適宜、プリント配布。 参考図書：適宜紹介する。	
履修上の留意点・ルール	
対話を重視する講義なので、最低限自分の意見は述べられるようにしてほしい。	